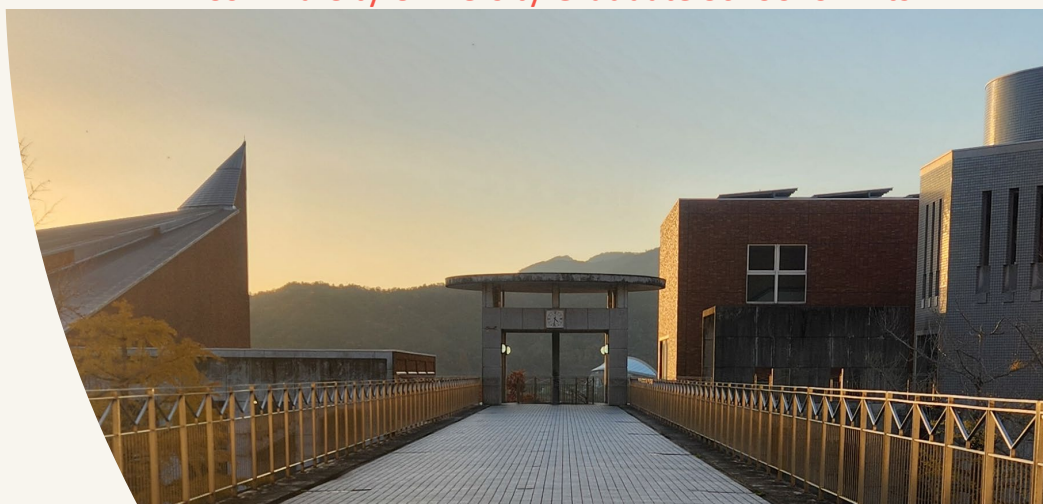


広島市立大学大学院
芸術学研究科

履修案内 2026



Hiroshima City University Graduate School of Arts



2026 Student Handbook



3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University



〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/>

2026年度 芸術学研究科履修案内 目次

第1部

【全研究科共通】	1
1 人材育成の目標及びポリシー	2
2 2026年度学年暦	3
3 2026年度カレンダー	4
4 履修登録	5
5 授業等	8
6 附属施設等の利用について	11
7 教員免許状について	13
8 大学院関係諸規程	14

第2部

【芸術学研究科】	1
【芸術学研究科の概要】	2
【博士前期課程】	5
I 芸術学研究科博士前期課程の概要	6
1 教育・研究の特色	
2 養成する人材	
3 研究科の構成	
4 教育・研究内容の概要	
5 各研究分野の教育・研究内容	
II 入学から修了まで	8
1 主指導教員と副指導教員の決定	
2 アドバイザー教員について	
3 履修手続について	
4 修了必要単位数について	
5 修了要件について	
6 研究計画書の作成と提出について	
7 修了作品、研究報告書(小論文)又は修士論文の作成と提出について	
8 学位について	
9 教育職員免許状について	
10 学術交流協定大学との学生交換事業について	
III 指導教員及び授業の概要	12
1 芸術学研究科(博士前期課程)指導教員一覧	
2 芸術学研究科(博士前期課程)授業科目の一覧	

【博士前期課程資料】	14
• 主・副指導教員希望届	
• 博士前期課程研究計画書	
• 指導教員変更願	
• アドバイザー教員希望届	
• 造形応用特別研究実施要項	
• 修了作品等審査願	
• 修士学位論文審査願	
【博士後期課程】	
I 芸術学研究科博士後期課程の概要	29
1 教育研究の特色	
2 養成する人材	
3 課程編成の考え方	
4 編成と研究内容	
II 入学から修了まで	31
1 主指導教員と副指導教員の決定	
2 アドバイザー教員について	
3 履修手続について	
4 修了必要単位数について	
5 修了要件について	
6 研究計画書の作成と提出について	
7 博士学位の申請手続について	
8 学位論文等の審査及び最終試験の実施について	
9 博士学位授与の可否の決定について	
10 学位について	
11 学位授与後の公表について	
12 論文等の提出による学位審査について	
III 指導教員及び授業の概要	36
1 芸術学研究科(博士後期課程)指導教員一覧	
2 芸術学研究科(博士後期課程)授業科目の一覧	
【博士後期課程資料】	38
• 主・副指導教員希望届	
• 博士後期課程研究計画書	
• 指導教員変更願	
• アドバイザー教員希望届	
• 広島市立大学博士學位規程芸術学研究科内規	
【専任教員・非常勤講師プロフィール】	56

【共通資料】

I	2026年度芸術学研究科論文指導日程について	58
II	各種届出資料提出期限について	61
III	広島市立大学大学院学則別表	62

全 研 究 科 共 通

人材育成の目標及びポリシー

「人材育成の目標」は、建学の基本理念である「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」に基づき、本学がどのような人材を育てるかを伝えるものです。これは、みなさんが卒業するときに、どんな人になってほしいかという大学からみなさんへのメッセージでもあります。

「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は、人材育成の目標に基づき、どんな力を身につけた人に本学が学位を授与するのかを伝えるものです。本学での学びを通して、みなさんが卒業するとき、どんなことをできるようになっているのか、どんな力を身につけているのかを示しています。

「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力をみなさんが確実に身につけられるように、本学がどうしているかを考えて教育課程（カリキュラム）を編成しているかを伝えるものです。みなさんの教育課程を構成するさまざまな科目や条件が、どういう考え方のもとに設けられているのかを示しています。

本学では、大学（大学院課程）全体の方針のもとに、研究科ごとに「人材育成の目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を定めています。

大学院課程

人材育成の目標

広島市立大学大学院は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、最先端かつ高度な専門性と深い学識を有し、課題発見・分析・解決能力を持ち、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島市立大学大学院は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の高度な知識・技能・能力を身に付けた上で研究科が定める審査に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与します。

多様な文化・価値観を尊び、人間、社会、自然、平和に関する幅広い関心と知識〈普遍的教養〉
専門領域に関する体系的な知識・技術・技能〈専門的知識・技術・技能〉
豊かな感性と真理探究への情熱に基づく課題発見・分析・解決能力〈課題解決能力〉

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島市立大学大学院は、それぞれ博士前期課程と博士後期課程を有する3研究科及び修士課程を有する1研究科で構成され、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、最先端かつ高度な専門性と深い学識を有し、課題発見・分析・解決能力を持ち、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標として、教育課程を次のとおり編成します。

1. 高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うため、各研究科において、基礎から応用に至る教育課程を編成します。
2. 博士前期課程については、幅広い視野に立った学識を身に付け、高い倫理観を養うことを目的とする全研究科共通科目群を開設します。
3. 博士後期課程については、各研究科の特性に応じた、高度な研究指導を行います。

各研究科

各研究科の「人材育成の目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」は大学公式ウェブサイトから確認できます。履修する授業科目を決定する前に、以下のリンクから確認をしてください。

https://www.hiroshima-cu.ac.jp/various_info/category0015/content0111/content0656/



学年暦 (2026年度)

		日 程	事 項	
前期 (4月1日～9月30日)	第1ターム (4月8日～6月9日)	4月 1日 (水) ～ 7日 (火)	春季休業	
		4月 2日 (木)	春季入学式	
		4月 2日 (木) ～ 7日 (火)	オリエンテーション	
		4月 2日 (木) ～ 7日 (火)	定期健康診断	
		4月 8日 (水)	前期授業開始	
		4月 2日 (木) ～15日 (水)	前期履修登録期間	
		4月8日 (水) ～14日 (火)、17日 (金)* 4月2日 (木) ～24日 (金)*	教科書販売 (冊子) 教科書販売 (電子)	
		4月22日 (水) ～24日 (金)	前期履修確認期間、第1ターム科目履修取消期間	
		4月30日 (木)	水曜日の授業実施	
		5月20日 (水) ～22日 (金)	前期・通年科目履修取消期間	
		6月 3日 (水) ～ 9日 (火)	第1ターム試験期間 (通年・セメスター科目は授業を行う)	
	第2ターム (6月10日～8月12日)	6月14日 (日)	開学記念日	
		6月24日 (水) ～26日 (金)	第2ターム科目履修取消期間	
		7月 6日 (月)*	第1ターム科目成績開示	
		7月22日 (水)	月曜日の授業実施	
		7月30日 (木) ～ 8月12日 (水)	前期定期試験	
		8月 6日 (木)	平和記念日 (全学休業日)	
		8月13日 (木) ～ 9月30日 (水)	夏季休業	
		8月17日 (月)	全学休業日	
		9月 1日 (火)*	前期・第2ターム科目成績開示	
		9月25日 (金)	秋季卒業式	
		9月24日 (木) ～10月 7日 (水)	後期履修登録期間	
	後期 (10月1日～3月31日)	第3ターム (10月1日～11月27日)	10月 1日 (木)	秋季入学式、後期授業開始
			10月1日 (木) ～7日 (水)、9日 (金)* 9月24日 (木) ～10月19日 (月)*	教科書販売 (冊子) 教科書販売 (電子)
			10月16日 (金)	月曜日の授業実施
			10月19日 (月) ～21日 (水)	後期履修確認期間、第2ターム科目履修取消期間
			10月24日 (土)・25日 (日)	大学祭
11月 5日 (木)			火曜日の授業実施	
11月 9日 (月) ～11日 (水)			後期科目履修取消期間	
11月23日 (月) ～27日 (金)			第3ターム試験期間 (通年・セメスター科目は授業を行う)	
11月23日 (月)・勤労感謝の日			月曜日の授業実施	
第4ターム (11月28日～2月5日)		12月14日 (月) ～16日 (水)	第4ターム科目履修取消期間	
		12月24日 (木)*	第3ターム科目成績開示	
		12月26日 (土) ～ 1月 3日 (日)	冬季休業	
		1月26日 (火)	金曜日の授業実施	
		1月27日 (水) ～ 2月 5日 (金)	後期定期試験	
		2月 6日 (土) ～ 3月31日 (水)	学年末休業	
		3月 2日 (火)	卒業判定結果の開示 (4年次)	
		3月 3日 (水)*	後期・第4ターム・通年科目成績開示	
		3月19日 (金)*	【国際・芸術】卒業論文・卒業制作着手判定結果開示(3年次)	
		3月19日 (金)*	【情報】配属学科(1年次)、進級判定結果(1～3年次) 開示	
3月23日 (火)	春季卒業式			

※の日程は変更の可能性があります。いちばる (UNIPA) の掲示で別途お知らせしますので確認してください。

2026年度 授業カレンダー

前 期								後 期							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月	29	30	31	1	2	3	4	10月	27	28	29	30	1	2	3
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23	24
	26	27	28	29	水30	予1	2		25	26	27	28	29	30	31
5月	3	4	5	6	7	8	9	11月	1	2	3	4	火5	6	7
	10	11	12	13	14	15	16		8	9	10	11	12	13	14
	17	18	19	20	21	22	23		15	16	17	18	19	20	21
	24	25	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
6月	31	1	2	3	4	5	6	12月	29	30	1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26
7月	28	29	30	1	2	3	4	1月	27	28	29	30	31	1	2
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	予15	16
	19	20	21	月22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
8月	26	27	28	29	30	31	1	2月	24	25	金26	27	28	29	30
	2	3	4	5	6	予7	8		31	1	2	予3	予4	予5	6
	9	予10	11	予12	13	14	15		7	8	9	10	11	12	13
	16	17	18	19	20	21	22		14	15	16	17	18	19	20
9月	23	24	25	26	27	28	29	3月	21	22	23	24	25	26	27
	30	31	1	2	3	4	5		28	1	2	3	4	5	6
	6	7	8	9	10	11	12		7	8	9	10	11	12	13
	13	14	15	16	17	18	19		14	15	16	17	18	19	20
9月	20	21	22	23	24	25	26	3月	21	22	23	24	25	26	27
	27	28	29	30					28	29	30	31			

授業・試験実施

凡例

- * 太線枠内は、授業等を行う期間
(集中講義は太線枠外でも行う)
- * は、入学式、卒業式
- * は、授業等振替日
- * は、授業予備日 (通常授業はなし)
- * は、第1・第3ターム科目の試験期間
(通年・セメスター科目は授業を行う)
- * は、期末試験日
- (は、試験予備日)
- * は、祝休日に授業・試験を行う日
- * は、全学休業日

クォーター期間

- ・ 第1ターム (4月8日～6月9日)
- ・ 第2ターム (6月10日～8月12日)
- ・ 第3ターム (10月1日～11月27日)
- ・ 第4ターム (11月28日～2月5日)

学内行事等

- (1) 春季入学式は4月2日 (木)、秋季入学式は10月1日 (木) とする。
- (2) オリエンテーションは、4月2日 (木) ～7日 (火) とする。
- (3) 6月14日 (日) の開学記念日は日曜日なので、振替日はなしとする。
- (4) 8月6日 (木) は、平和記念日のため休業とする。
- (5) 秋季卒業式は9月25日 (金)、春季卒業式は、3月23日 (火) とする。
- (6) 1月15日 (金) は授業を行わず大学入学共通テスト準備を行う。

授業関係

- ア 4月30日 (木)は、水曜日の授業を実施する。
- イ 5月1日 (金)は、授業予備日とする。(通常の授業はなし)
- ウ 7月22日 (水)は、月曜日の授業を実施する。
- エ 10月16日 (金)は、月曜日の授業を実施する。
- オ 11月5日 (木)は、火曜日の授業を実施する。
- カ 11月23日 (月・勤労感謝の日)は、月曜日の授業・試験を実施する。
- キ 1月26日 (火)は金曜日の授業を実施する。

履修登録

履修登録とは、履修しようとする授業科目を登録する手続きです。履修登録を行っていない授業科目は、必修科目であっても受講することはできないため単位を修得できません。登録内容の誤りなどにより進級や卒業ができなくなっても、自身の責任となります。以下の流れで手続きを行いますので、前述の資料や大学からの連絡事項に十分注意して、間違いのないように履修登録を行ってください。各期間の日程は、学年暦を確認しましょう。

STEP

1

履修登録期間

いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。いちぼる (UNIPA) の操作マニュアルを参考に、指定の期間に正しく登録してください。前期の履修登録期間には、年間分 (前期・後期の両方) の科目を一括して登録することができます。前期に登録した後期開講科目は、後期の履修登録期間で修正できます。



- 履修登録すると、いちぼる (UNIPA) のクラスプロフィールから授業情報 (講義資料など) が確認できます。
- 第2・4ターム科目や集中講義などの学期途中から始まる授業も、当該期間中に必ず登録してください。
- クラス分けのある授業などは、あらかじめ履修登録されている場合があります。内容に変更がある場合は事務局教務グループまでお問い合わせください。
- 履修内容にエラーがあるときは、必ず登録内容を見直し、必要に応じて修正をしてください。エラーの内容が分からない場合は、事務局教務グループまでお問い合わせください。

【よくあるエラーの内容】

- ・履修の上限単位数を超えている
- ・必修科目を登録していない
- ・必要要件単位を満たしていない

STEP

2

履修確認期間

履修確認期間はSTEP1の期間に登録した科目を変更・追加・削除できる期間です。いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。変更内容は、事務局で確認した結果、却下される場合もあります。履修内容に変更がない場合、手続きは不要です。

自身の確認不足による登録誤りは、履修確認期間終了後に修正することができません (後述の履修登録取消制度で取消しをする場合を除く) ので注意してください。

STEP

3

履修確定

STEP1・2の期間を経て履修内容を確定します。履修確定後、当該年度内の卒業が見込まれる場合には、卒業見込証明書が発行できるようになります。

GPA制度
と履修

履修取消期間

履修取消期間は、一度履修登録を確定させた授業科目について、GPA制度に基づき、登録を取り消すことができる期間です。いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。

授業の内容が自分の勉強したいものと違って、授業に対する知識が不足していることに気付いた、学修時間を確保するために履修科目数を減らしたい、といった場合に手続きを行いましょう。



- 必修科目やシラバスに取消不可と明記されている科目は取り消しできません。
- 集中講義科目は初回授業の2週間前まで履修取消ができます。当該期限以降の履修取消期間での取消はできませんので注意してください。手続きはいちぼる (UNIPA) の「Web申請」から行うことができます。

ワンポイント・アドバイス

いちぼる (UNIPA) の「Web申請」では、各種手続きについて案内しています。申請様式のダウンロードや、なかにはオンラインで申請できるものもあります。

希望資格登録

教育職員免許状の取得や学芸員を目指す人は、「希望資格登録」を行う必要があります。希望者は履修登録期間内にいちぼる（UNIPA）から必ず手続きをしてください。登録がない学生は、資格取得関係科目の履修ができなかったり、教職や学芸員資格に関するお知らせ等が配信されなかったりしますので注意してください。

履修にあたっての注意事項

(1) 履修の禁止

次の授業科目は履修することができません。

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目

(2) 履修登録上限単位数

学修における予習・復習の時間を十分に確保し、一つひとつの授業科目の理解を深めるために、次のとおり1学期に履修できる単位数の制限を設けています。通年科目は、その単位数の1/2を1学期あたりの単位数として計算します。



履修登録上限単位数
24単位



MEMO
前期・後期授業期間中に実施する集中講義は、この上限単位数に含まれます。

<例外>

- 履修登録上限の対象とはならない授業科目
 - ・長期休業期間（夏季休業・学年末休業）に実施される集中講義
 - ・自由科目、資格取得関係科目
- 履修登録上限の対象とはならない学生
 - ・情報科学部で履修登録単位数の上限解除が認められた学生（所属学科の承認が必要です。）

(3) 下年次開設科目の履修（再履修）

下年次開設科目や、単位を修得できなかった授業科目は、次年度（または次学期）に再履修することができます。ただし、再履修にあたっては、担当教員の承認が必要となる場合があります。

(4) 他学部・他学科履修等

所属する学部以外の学部開設されている全学共通系科目あるいは所属する学部・学科・専攻以外の専門教育科目の履修を希望する場合は、以下の手順で手続きを行ってください。なお、他学部・他学科履修により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は10単位です。

他学部履修

所属する学部以外の学部開設されている授業科目の履修を希望する場合は、いちぼる（UNIPA）の「Web申請」から履修登録期間内に「他学部履修申請」を行ってください。

他学科履修（情報科学部のみ）

所属する学科以外の学科開設されている授業科目の履修を希望する場合は、必ず授業担当教員の承諾を得た上で、履修登録期間内にいちぼる（UNIPA）から履修登録を行ってください。無断で履修してはいけません。履修登録のSTEP2の期間までに教務委員による審査を行い、結果を通知します。審査の結果、却下される場合もあります。

また、自学科でも開設されている授業科目と同一名もしくは内容が同じと認められる他学科の授業を履修する場合には、「Web申請」から「代替履修許可申請書」をダウンロードし、履修登録期間内に事務局教務グループに提出してください。

(5) 遠隔授業の履修

授業の実施形態が「オンライン」または「オンデマンド」の授業について、卒業要件として認められる単位の上限は60単位（(4)および後述の単位互換制度により修得した単位を含む）です。授業の実施形態はシラバスで確認することができます。

単位互換制度

単位互換とは、本学以外の大学が提供する授業科目を受講して修得した単位を、本学の単位として認定する仕組みです。単位互換制度により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は60単位（前述の(4)および(5)により修得した単位を含む）です。

◆ 協定を結ぶ機関との単位互換

(1) 海外学術協定校への派遣留学

本学では海外の大学と協定・覚書を締結し、学生の交換留学を推進しています。派遣期間中に修得した単位は、学部での審査を経て、本学の単位に認定することができます。認定を希望する場合は、事務局教務グループにご相談ください。

また、協定校以外の大学に留学して単位を修得する場合でも認定できることがあります。希望する場合は、必ず留学前に事務局教務グループに確認してください。

<手続きに必要な書類>

- ・単位認定願（事務局教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かるもの

※いずれも外国語で書かれたものであれば、日本語訳を添付すること

(2) 教育ネットワーク中国

本学では他大学との連携や、教育内容の充実を図る目的で一般社団法人「教育ネットワーク中国」が実施する単位互換制度に加入しています。広島県内の大学を中心に23の大学等が参加しており、各大学が提供する授業科目を単位互換科目として受講することができます。修得した単位は一部を除き、原則自由科目として認定されますが、学部によって科目の取扱いが異なるので、Webで公開される募集要項等を確認するようにしましょう。

（一社）教育ネットワーク中国 <https://www.enica.jp/>

◆ 既修得単位等認定

本学に入学する前に大学又は短期大学で修得した単位は、学部での審査を経て、全学共通系科目又は外国語系科目として認定することができます。入学した日から1か月以内に申請が必要です。認定を希望する場合は、事務局教務グループに早めに相談してください。

<手続きに必要な書類>

- ・既修得単位等認定願（事務局教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かる

授業等

科目の種類

授業科目は講義、演習、実験、実習、実技などに区分され、それぞれ授業時間や単位数が異なります。また、科目の性質によって以下のように区分されますので、よく理解しておくようにしましょう。授業科目の詳細は教育課程表を参照してください。

必修科目

卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目です。

選択科目

卒業のため自身の教育課程表の中から、選択することができる科目で、修得単位は卒業要件単位に加算されます。

卒業要件をよく理解したうえで選択する必要があります。

自由科目

興味関心に応じて自由に履修することができる科目です。例えば、資格取得関係科目が該当します。卒業要件単位には数えられませんので注意してください。

単位

それぞれの授業科目には単位数が決められています。1単位を修得するためには、教室内での授業等の時間及び教室外での自主的な学修時間を合わせて45時間の学修を行う必要があります。なお、45時間のカウントについては、講義、演習、実験、実習、実技によって原則的に次のようになっています。

区 分	大学の授業での学修時間	授業時間外の自主的な学修時間	合 計
講 義	15時間	30時間	45時間
演 習	30時間	15時間	45時間
実 験 実 習 実 技	30～45時間	0～15時間	45時間

授業時間

時限	授業時間
1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
3時限	13：00～14：30
4時限	14：40～16：10
5時限	16：20～17：50
6時限	18：00～19：30

注) 通常の授業は1～5時限で行われます。

開講区分

授業科目は次の開講区分により開講されます。

開講区分	説明（開講期間）
通年科目	年間を通して開講
前期科目	前期半年間に開講
第1ターム科目	前期半年間の前半に開講
第2ターム科目	前期半年間の後半に開講
後期科目	後期半年間に開講
第3ターム科目	後期半年間の前半に開講
第4ターム科目	後期半年間の後半に開講
集中講義科目※	特定の期間に集中して開講

※ 基本的には、前期又は後期に開講する授業科目ですが、諸般の理由により長期休業期間（夏季休業、学年末休業）も含め集中開講となるものです。

授業アンケート

本学では、学生のみなさんが授業をどのように評価しているかを知り、授業の改善に役立てるために授業アンケートを実施しています。回答した個人が特定されることはありませんので、率直な意見を回答してください。詳細は学期末に[いちぼる \(UNIPA\)](#)の掲示でお知らせします。

教科書等

授業で使う教科書や参考書は、[いちぼる \(UNIPA\)](#)の「シラバス照会」から確認できます。また、一部の授業では電子教科書システムUniTextを利用します。指定の教科書は、学内の書店や販売サイトで購入できます。販売期間等は学年暦やいちぼる (UNIPA) の掲示で確認してください。なお、教科書等は附属図書館で借りることもできますが、冊数には限りがありますのでご注意ください。

授業で利用するシステム

[いちぼる \(UNIPA\)](#)で履修登録をすると、登録した授業の時間割や「クラスプロフィール」を確認できるようになります。クラスプロフィールでは、授業資料の確認や課題やテストの提出ができます。

そのほか、大学のアカウントで利用可能なMicrosoft TeamsやGoogle Classroomを使う場合もありますので、授業担当教員の指示に従ってください。

講義等を欠席する場合の手続き

病気やケガによる入院等、やむを得ない事情により講義等を欠席する場合は、その講義等の担当教員まで申し出てください。なお、感染症にかかった場合は以下のリンクから確認してください。

<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0069/>

休講・補講・教室変更などの通知

休講・補講・教室変更などがある場合には、[いちぼる \(UNIPA\)](#) で通知します。授業担当教員から直接連絡がある場合もあるため大学付与のメールアドレスも毎日チェックしましょう。

こうした通知や連絡を見なかったために皆さんに不利益が生じて、大学は責任を負いません。毎日通知や連絡を見る習慣を身に付けてください。

ワンポイント・アドバイス



掲示

いちぼる (UNIPA) の「掲示」では、大学からのお知らせが確認できます。

休講・補講・教室変更などの通知をはじめ、重要な手続きやイベントの案内、授業内の連絡など様々なお知らせが届きます。常に確認する習慣を付けましょう。

自然災害や交通機関の運休時の授業

暴風雨などの自然災害やストライキ等によって公共交通機関の運行に支障が生じたり、そのおそれがある場合は、状況に応じて授業を休講とする場合があります。その取扱いは次のとおりとします。

1. 授業の実施が困難な場合の判断基準

- (1) 広島地方気象台から広島市安佐南区に暴風警報、暴風雪警報又は気象等に関する特別警報のいずれかが発表された場合
- (2) 暴風雨などの自然災害やストライキ等により、ア又はイが発生した場合
 - ア アストラムライン及び高速4号線を通過する広島電鉄バスの双方が全面的に運行停止
 - イ JR山陽本線において広島駅又は横川駅を含む区間が運行停止

2. 休講の取扱い

- (1) 授業開始後に上記1のいずれかの事由が発生した場合は、その後に開始される授業を休講にします。
- (2) 授業開始前に上記1のいずれかの事由が発生している場合は、発生した時間により次のとおり休講とします。
 - 午前7時の段階で上記1の事由が発生している場合は、午前中の授業は休講
 - 午前10時の段階で上記1の事由が継続している場合は、午後の授業もすべて休講

3. 避難情報の「警戒レベル」について

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、自治体から発令される避難情報の「警戒レベル」は、休講の判断基準となりませんが、本学・自分の居住地域・通学途上の地域に『避難指示』（警戒レベル4）以上が発令されている場合は、自分や家族の身の安全を最優先に考え、授業に出席するか欠席するかを判断してください。

欠席しても「欠席扱い」とはなりませんので、後日、担当教員に事情説明を行い、授業の指示を仰いでください。（定期試験の場合は、1週間以内に「追試験受験願」を事務局教務グループに提出してください。）

なお、本学は安佐南区の「緊急避難場所」に指定されています。

4. その他

上記1の判断基準に該当しない自然災害（地震など）及びそれに伴う公共交通機関の運行停止などが発生した場合の休講等についてはその都度お知らせします。

障がいのある学生への支援

心身に障がいのある学生が他の学生と同じように授業を履修し、大学生活を送れるよう合理的な配慮を行っています。配慮を希望する学生は、心と身体の相談センターの保健室または、相談室に相談してください。

申請の対象になるのかわからない、どんな配慮を希望してよいのかわからない、困っているけれどどこに相談したらよいのかわからない等、何でも相談できますので、まずは、気軽にお問い合わせください。

詳細はこちらから <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/category0006/c00032297/>

附属施設等の利用について

開館・利用時間等は、各ホームページから最新情報を確認してください。
各施設の場所は、[キャンパスマップ](#)をご覧ください。

1	附属図書館	附属図書館オリジナルサイト (年間カレンダー) 電話 082-830-1508
2	語学センター	語学センターオリジナルサイト 電話 082-830-1509
3	情報統括センター	情報統括センターオリジナルサイト 電話 082-830-1511
4	心と身体の相談センター	心と身体の相談センター (大学ホームページ) 電話 082-830-1510
	保健室	応急手当、健康相談、健康チェック等 (本部棟1階)
	相談室	カウンセリング (本部棟1階)
5	法律相談	紙屋町法律相談センターでの法律相談 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
6	売店	(学生会館2階)
	コンビニ	文房具、弁当、生活用品、書籍等 [生活彩家]、[紀伊国屋書店]
	画材店	画材等 [ピカソ画房]
7	学生食堂	定食、めん類、カレー等 (学生会館1階)
8	喫茶	軽食類、デザート類、コーヒー等 (学生会館1階)
9	駐 車 場	構内駐車場の利用申請 (大学ホームページ) 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
10	キャッシュコーナー	ゆうちょ銀行ATM (学生会館2階)
11	集会室 、 体育館 、 テニスコート 、 グラウンド	利用申込が必要 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)



教育職員免許状について

1 専修免許状とは

専修免許状とは、一種免許状を現に有し、または一種免許状を取得するのに必要な単位をすでに修得し、修士の学位を有する者に授与される、上級の免許状です。

2 本学大学院において取得できる教育職員免許状の種類

中学校教諭一種免許状又は高等学校教諭一種免許状を取得している人は、免許状の種類に応じて専修免許状を取得することができます。本学大学院が認定を受けている専修免許状の種類は、次のとおりです。

大学院	専攻	中学校教諭	高等学校教諭
国際学研究科 博士前期課程	国際学専攻	英語 社会	英語 地理歴史 公民
情報科学研究科 博士前期課程	情報工学専攻 知能工学専攻 システム工学専攻		数学 情報
	医用情報科学専攻		情報
芸術学研究科 博士前期課程	造形芸術専攻	美術	美術 工芸

3 免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

「教育職員免許法」に定める法律上の最低修得単位数は、次のとおりです。本学大学院では、各研究科の定めるところにより、指定授業科目から24単位以上を修得する必要があります。

免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数	備考
専修	修士の学位を有すること	83	24単位(83-59)以上 を大学院で修得する
一種	学士の学位を有すること	59	

4 指定授業科目

在学する研究科の履修案内(巻末資料・別表)を確認し、自専攻開講科目から指定授業科目24単位以上を修得してください。

5 取得・申請方法

大学院で必要な単位を修得し、都道府県の教育委員会に申請することで授与されます。

3月修了予定者については、本人に代わって本学が広島県教育委員会に申請します(一括申請)。修了予定年度の10月に開催される教員免許状申請ガイダンスに必ず出席し、必要な手続きを行ってください。免許状申請には、1件につき3,400円の手数料がかかります。

広島県教育委員会から授与された免許状は、修了式当日に交付します。

大学院関係諸規程

- (1) 広島市立大学大学院学則
- (2) 広島市立大学学位規程
- (3) 広島市立大学既修得単位認定規程
- (4) 広島市立大学学生の休学及び復学に関する規程
- (5) 広島市立大学学生の退学に関する規程
- (6) 公立大学法人広島市立大学学生の転学及び転学部等に関する規程
- (7) 広島市立大学学生の留学に関する規程
- (8) 広島市立大学派遣学生及び特別聴講学生に関する規程
- (9) 公立大学法人広島市立大学の授業料等に関する規程
- (10) 公立大学法人広島市立大学授業料等の減免に関する規程
- (11) 広島市立大学長期履修学生規程
- (12) 広島市立大学大学院におけるGPA制度に係る実施要綱

各研究科履修規程

- (1) 広島市立大学大学院国際学研究科履修規程
- (2) 広島市立大学大学院情報科学研究科履修規程
- (3) 広島市立大学大学院芸術学研究科履修規程
- (4) 広島市立大学大学院平和学研究科履修規程

芸術学研究科

【芸術学研究科の概要】

● 人材育成の目標

○ 博士前期課程

芸術学研究科は、文化芸術の創造及び発展をけん引できる、高度の創作研究能力及び芸術理論に関する専門性を有した人材の育成を教育理念とし、美術、デザイン・工芸に関する高度の制作・研究能力を培い、地域文化振興と国際文化交流において実践的な経験と芸術理論を踏まえた専門性を有する人材を育成することを目標としています。

○ 博士後期課程

芸術学研究科は、文化芸術の創造及び発展をけん引できる、卓越した創作研究能力及び芸術理論に関する高度の専門性を有した人材の育成を教育理念とし、美術、デザイン・工芸に関する卓越した制作・研究能力を培い、地域文化振興と国際文化交流において指導的な役割を果たす、理論を踏まえた高度の専門性を有する人材を育成することを目標としています。

● 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 博士前期課程

芸術学研究科は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の技術や能力を身につけたうえで、以下の修了作品(研究報告書を含む)又は修士論文を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、修士(芸術)の学位を授与します。

- ・ 研究分野の創作・研究活動において高度な能力を有する。
- ・ 研究分野の創作・研究活動における多様な素材や技術に関して高度な能力を有する。
- ・ 地域や国際社会と関わりながら、芸術と社会に関する豊かな学識と経験を有する。
- ・ 修了作品にあっては、専門的な技術をもち、独創的な表現を追求した作品
- ・ 修士論文にあっては、文献を十分に調査したうえで、独自の洞察を行っている論文

○ 博士後期課程

芸術学研究科は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の技術や能力を身につけるか、それと同等以上の学力があると確認された上で、以下の研究作品及び博士學位論文を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、博士(芸術)の学位を授与します。

- ・ 研究分野の創作・研究活動において卓越した能力を有する。
- ・ 研究分野の創作・研究活動における多様な素材や技術に関して卓越した能力を有する。
- ・ 地域や国際社会と関わりながら、芸術と社会に関する高度な学識と経験を有する。
- ・ 研究作品にあっては、高度に専門的な技術をもち、独創的で卓越した表現を追求したうえで、更なる芸術上の展開が期待できる作品
- ・ 博士學位論文にあっては、適切なテーマを設定し、文献を十分に調査した上で、独自の洞察を行い、的確な構成と表現によって一貫した主張を行っている論文

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

芸術学研究科は、文化芸術の創造・発展をけん引することを理念とし、美術、デザイン・工芸に関する卓越した創作研究、及び芸術理論に関する研究の能力を培うことにより、地域文化振興と国際文化交流において指導的な役割を果たし、理論を踏まえた高度の専門性を有する人材を育成することを目的として、教育課程を次のように編成します。

○ 博士前期課程

1. 幅広い視野から芸術を理解し、深い教養を身に付けることができるよう、全研究科共通科目群を教育課程に組み入れます。
2. 専門分野における知識・技能を養うための科目を開設し、研究指導を行います。
 - ・専門的な創作と理論の研究及び発表
 - ・創作を基礎づける理論に習熟するための芸術学関連講義
 - ・理論構築能力を養う論文作成の演習
 - ・分野を超えた造形演習や語学演習
 - ・国際的、社会的な環境における創造に関わる研究実践

○ 博士後期課程

- 専門分野に必要な深い学識と高度な研究能力を養うための科目を開設し、研究指導を行います。
- ・高度で専門的な創作の研究及び発表
 - ・専門的な理論研究と高度な理論構築能力を養う論文作成の演習
 - ・専門領域での探究を基に領域を超えた横断的な研究実践

● 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

芸術学研究科では、次のような人の入学を求めています。

○ 博士前期課程

[求める人物像]

1. 美術、デザイン・工芸に関する知識や技術を基に、独創的な表現力を具えている人
2. 多様な素材や技術に関する知識を具えている人。
3. 芸術文化に関わる幅広い知識と研究能力を具えている人。
4. 芸術を通じた地域文化振興と国際文化交流に関する意欲を持っている人。

[入学者選抜の基本方針]

芸術学研究科では、求める人物像を踏まえて、多面的・総合的な評価による選抜を実施しています。

○ 博士後期課程

[求める人物像]

1. 研究分野の創作・研究活動において専門的な能力と技術を持ち、高度な表現力を具えている人。

2. 研究分野の創作・研究活動における多様な素材や技術に関して高度な能力を具えている人。
3. 芸術文化に関わる幅広い知識と研究能力に加え、独自の洞察力を具えている人。
4. 芸術を通じた地域文化振興と国際文化交流に関する意欲と積極性を持っている人。

[入学者選抜の基本方針]

芸術学研究科では、求める人物像を踏まえて、多面的・総合的な評価による選抜を実施しています。

博 士 前 期 課 程

【博士前期課程について】

I 芸術学研究科博士前期課程の概要

1 教育・研究の特色

- (1) 近年、急速な縮退を危惧されている日本独自の伝統的な美術、工芸等の芸術文化に対し、古典研究を重視することにより貴重な伝統の継承を行うとともに、現代の視点に立って新たな美術・工芸等の創造に寄与すべく、21世紀を展望した美術、工芸教育・研究を行います。
- (2) 技術革新により多様に展開される新素材、新技法への研鑽を深めるとともに、急進展を遂げつつあるコンピュータをもととした多岐にわたる表現メディア、特に映像メディアへの研究に取り組み、新たな造形表現の創出のための研究を行います。
- (3) 単科大学が多い芸術系大学のなかで、国際学部、情報科学部との3学部構成という特色を活かし、これまで教員の共同研究を他学部との連携による教育・研究を実施してきたところであり、大学院においても、引き続き国際学研究科及び情報科学研究科との連携を図り、学際的な教育・研究を実施します。
- (4) 全人格的人間形成を目指した教育を通じて、豊かな学識を養い、論理的な思考力を鍛えることにより、造形上の創作作品を通しての感性的な自己表現のみならず、著作物等を通しての文章表現など多様な表現力を有する芸術家の養成を行います。

2 養成する人材

美術、デザイン、工芸に関する幅広い知識と高度な技術、深い感性を体得させ、その基礎となる豊かな学識を養うことにより、将来、作家、デザイナー、教育者、研究者、学芸員（キュレーター）、ギャラリストなどの領域において指導的な役割を果たすことができる、幅広い視野と高度な表現力を持った人間性豊かな専門家を養成することを目標とします。

3 研究科の構成

芸術学研究科の博士前期課程は、造形芸術専攻の1専攻で次の6研究領域によって構成します。

- ① 日本画に関する教育・研究を行う日本画研究領域
- ② 油絵に関する教育・研究を行う油絵研究領域
- ③ 彫刻に関する教育・研究を行う彫刻研究領域
- ④ 現代美術に関する教育・研究を行う現代表現研究領域
- ⑤ デザインと工芸に関する総合的な教育・研究を行う造形計画研究領域
- ⑥ 美学・美術史に関する教育・研究を行う芸術理論研究領域

※ ①～⑤の研究分野の名称を総じて使用する場合には「芸術実技研究領域」と記します。

4 教育・研究内容の概要

本研究科では、広範な活動領域において持続的な創作活動を行うことができるよう、基礎から応用まで、高度な創作能力を育成するための体系的な教育を行います。授業科目は、次の構成のとおりです。

(1) 4研究科共通の全研究科共通科目

高度な専門的知識と能力をもつ研究者や専門職業人を目指す者たちが、専攻する専門分野の狭い研究領域に閉じ込められることなく、常に旺盛な知的好奇心、多様な問題意識、学際的関心を持ち続けることができるように、4研究科共通の選択必修科目が設けてあります。この科目群は、人文、社会、自然、芸術など既存の縦割りによる学問領域を超えて、より広範な9科目から成る横割の学際的な授業科目で編成されています。

(2) 基礎理論科目及び専攻開設科目からなる研究科開設科目

基礎理論科目では、広く芸術に関する幅広い視野と識見を養うため、芸術の理論、歴史等を教授し、実技と演習によって構成される専攻開設科目と合わせて、芸術の理論と実践の有機的な連携を図っていきます。

5 各研究領域の教育・研究内容

(1) 日本画研究領域

日本画の表現及び技法、材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の現代における個性的な創作力の育成を図る。教育課程の編成に当たっては、各人の個性的な創作力の育成を主体とする研究室と、創作力の育成及び古典模写を通して技法や材料の研究を深める研究室の二本立てとし、指導の多角化を図る。

(2) 油絵研究領域

油彩の技法及び材料の理解と実践による造形感覚を修得するとともに、西洋画の絵画構造や理論について研究し、各自の個性的な創作力の育成を図る。教育課程の編成に当たっては、絵画技法、版画技法及びそれらの材料研究を通して各人の個性的な創作力を養う研究室、伝統的な油絵表現に留まらない現代美術の領域における複合的な創作力を養う研究室により構成し、多角的な研究指導に配慮する。

(3) 彫刻研究領域

学部で修得した基礎的技術を一層高度な芸術性の高いものとするため、塑造、木彫、石彫、金属、ミクストメディア、セラミックスの各工房において、独創的な彫刻の研究を深める。教育課程の編成に当たっては、主要な素材、技法の種別にしたがって2つの研究室により構成し、多角的な研究指導に配慮する。

(4) 現代表現研究領域

素材や技法にとらわれず、現代に必要とされる芸術表現の実践と研究を行う。歴史・文化・社会・政治など異なる領域を横断し、理論的な分析や考察を深めるとともに、新たな芸術表現

の創出と具体化に向けた研究指導に配慮する。芸術文化の領域において、先端的な表現や活動を行うための高い専門性と実践的能力を兼ね備えて社会で活躍できる人材を育成する。

(5) 造形計画研究領域

デザイン及び工芸の使命である「高次元の生活文化の創造」を基盤に据え、独自の美意識を探究し、総合的な視点に基づき、より高度で専門的な造形研究を行う。

教育課程の編成に当たっては、多様化、多角化する生活文化や社会環境の中で総合的な視点から考察することを目的として、6つの研究室によって構成し、生活社会を取り巻く諸問題、諸課題への理解と認識を深めるとともに、新たな造形表現の創出と具現化に向けた研究指導に配慮する。

(6) 芸術理論研究領域

現代の多様化した芸術表現や社会の要請に対応して、理論研究者、学芸員、ギャラリスト等と創作者が一体となって芸術活動に取り組む例が多く見られており、理論と実践の連携の必要性がより高まっている。

芸術理論研究では、美学、美術史等における理論的な分析や考察の能力を訓練して、高度な専門研究を遂行するための指導を行い、芸術に対する感性と思考力を兼ね備えて幅広く芸術文化に関わる分野で活躍する人材を育成する。

II 入学から修了まで

1 主指導教員と副指導教員の決定

博士課程前期においては、主指導教員が徹底した個別的研究指導を行い、副指導教員はこれを補佐します。

学生は、「主指導教員希望届」を大学事務局教務グループへ提出してください。副指導教員については、主指導教員と相談の上、芸術実技研究では実技、理論の各分野から1名ずつ希望する教員を、芸術理論研究では理論分野から希望する教員を選び、その教員の了承を得て「副指導教員希望届」を事務局教務グループへ提出してください。(なお、希望する場合は、他研究室の教員1名を副指導教員として追加することができます。)
「主指導教員希望届」「副指導教員希望届」については、別に定める期日までに手続きを行ってください。(様式は15～17頁参照)

なお、学生は、指導教員の変更を希望する場合には、主指導教員及び副指導教員の承認を得たうえで所定の「指導教員変更願」を研究科長に提出することができます。研究科長は「指導教員変更願」が提出された場合には、主指導教員の所見等を参考にし、指導教員の変更を認めることができます(様式は20・21頁参照)。

2 アドバイザー教員について

希望する場合は、情報科学研究科の教員に「アドバイザー教員」となっていただき、届け出た上で、アドバイス指導を受けることができます。「アドバイザー教員希望届」を、随時、事務局教務グ

ループまで提出してください(様式は22頁参照)。届の提出に当たっては、主指導教員および情報科学研究科の当該教員の承認を必要とします。

3 履修手続について

履修手続は全研究科共通に掲載の【履修】を参照の上、所定の期日までに行ってください。

4 修了必要単位について

修了必要単位は、33 単位以上とし、その内訳は以下のとおりです。

○ 全研究科共通科目及び選択科目 4 単位

○ 研究科開設科目 29 単位

⌈	<input type="checkbox"/> 必修科目	3 単位	⌋
	<input type="checkbox"/> 基礎理論科目	8 単位	
	<input type="checkbox"/> 選択必修科目		
	• 造形総合研究	16 単位	
	• 造形特別研究	2 単位	

芸術学研究科の学生は国際学研究科開設科目を履修することが可能です。ただし、以下の条件がありますので注意してください。

・芸術理論領域以外の学生は、国際学研究科開設科目を修了必要単位(33 単位)には含めることはできません。

・芸術理論領域の学生が取得する国際学研究科開設科目の単位は、選択必修科目造形特別研究の単位として認められます。

5 修了要件について

博士前期課程を修了するためには、大学院に2年以上在学し、前述の所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで修了作品(研究報告書を含む)又は修士論文を提出し、その審査と試験に合格する必要があります。秋季(9月)修了を希望する学生は指導教員及び事務局教務グループに相談してください。

6 研究計画書の作成と提出について

学生は、年度当初に主指導教員の指導に基づき、研究目的、作品・論文の概要、今後のスケジュール等について記載した「研究計画書」を作成し、所定の期日までに事務局教務グループへ提出してください。研究計画書の提出にあたっては、主指導教員及び副指導教員の承認を得てください(様式は18・19頁参照)。

7 修了作品、研究報告書(小論文)又は修士論文の作成と提出について

博士前期課程の修了要件を満たす見込みが付き、学位の審査を受けようとする学生は、所定の

期日までに、芸術実技研究の学生は、「修了作品等審査願」とともに修了作品（「修了作品目録」により提出）及び研究報告書（小論文）を、芸術理論研究の学生は「修士論文審査願」とともに修士論文を事務局分室まで提出してください（様式は26～28頁参照）。

修了作品及び研究報告書（小論文）又は修士論文等の審査は、主指導教員及び副指導教員（2名）で編成する、「修了作品等審査委員会」が行います。審査委員会は、必要に応じて専攻以外の教員等の協力を得るものとします。

【論文等審査基準】

論文等の審査に当たっては、以下の観点に基づき、総合的に判定を行います。

【修了作品審査基準】

1. 学位授与にふさわしい質と量があること。
2. 独自の研究を踏まえた創造性を有すること。
3. 素材や技術の研究を踏まえた表現力を有すること。

【研究報告書審査基準（芸術実技研究）】

1. 研究テーマが妥当であること。
2. 先行研究や関連資料を十分に踏まえていること。
3. 設定された問題を整合性と一貫性をもって考察していること。
4. 研究が独創性を有すること。

【修士学位論文審査基準（芸術理論研究）】

1. 研究テーマと問題設定が妥当であること。
2. 先行研究や関連資料を十分に踏まえていること。
3. 設定された問題を整合性と一貫性をもって考察していること。
4. 研究が独創性を有すること。

8 学位について

修了必要単位数を満たした上で、修了作品及び研究報告書（小論文）又は修士論文が審査に合格すると、研究科委員会の判定を経て学位が授与されます。学位の名称は「修士(芸術)」となります。

9 教育職員免許状について

中学校教諭一種免許状（美術）と高等学校教諭一種免許状（美術又は工芸）を取得している者は、別表の科目 24 単位を修得することにより、美術又は工芸の専修免許状を取得することができます（巻末の学則別表を参照）。

芸術学研究科で取得できる教育職員免許状は次のとおりです。

中学校教諭 専修免許状 美術

高等学校教諭 専修免許状 美術

高等学校教諭 専修免許状 工芸

10 海外学術交流協定大学への派遣について

広島市立大学では、以下のとおり海外学術交流協定大学への学生派遣（半年または1年の派遣留学）を実施しています。この学生派遣に参加を希望する人は、計画的な履修計画をたてるとともに、必要な外国語の修得に努めてください。

最新の情報は、国際交流推進センターで確認してください。

履修案内2026年度 大学院芸術学研究科

Ⅲ 指導教員及び授業の概要

Ⅰ 芸術学研究科(博士前期課程)指導教員一覧

専攻	研究領域	研究室	指導教員
造形芸術	日本画	日本画 A	教授 今村雅弘
			教授 荒木亨子
		日本画 B	教授 前田力
	講師 古賀くらら		
	油絵	油絵 A	教授 石黒賢一郎
			教授 釣谷幸輝
			講師 フィン・マシュー
		油絵 B	講師 大熊弘樹
			教授 志水児王
			講師 大東忍
	彫刻	彫刻 A	教授 田中圭介
			講師 大島由起子
		彫刻 B	准教授 岩崎貴宏
	講師 山本聖子		
	現代表現	現代表現	准教授 古堅太郎
			講師 長坂有希
	造形計画画	視覚造形	教授 中村圭
			講師 鹿田義彦
		立体造形	准教授 藤江竜太郎
		映像メディア造形	教授 笠原浩
			准教授 城井文
		金属造形	教授 永見文人
			准教授 内堀豪
		染織造形	教授 野田睦美
漆造形	教授 大塚智嗣		
	准教授 青木伸介		
芸術理論	美学美術史	准教授 城市真理子	
		准教授 石松紀子	
		准教授 石谷治寛	

各講義の概要(シラバス)はいちぼる(UNIPA)を確認すること。

2 芸術学研究科(博士前期課程)授業科目の一覧

区分	講義名	単位数	必要単位数	年次	履修期	形態	代表教員名	備考	
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論A(人文・社会科学)	2	4	1・2	前期		上尾真道		
	人間論B(自然科学)	2		1・2	前期	集中	曾雌崇弘		
	国際関係と平和	2		1・2	後期		石田淳		
	ヒロシマと核の時代	2		1・2	前期		佐藤史郎		
	日本論	2		1・2	前期		山口えり		
	研究倫理	2		1・2	前期		河合 孝尚		
	情報と社会	2		1・2	前期	集中	河又貴洋		
	道具論	2		1・2	後期(第4ターム)		藤江竜太郎	2026年度は開講しない	
	都市論	2		1・2	後期(第3ターム)		中村圭	2026年度は開講しない	
選 択 科 目	造形応用特別研究	2	3	1・2	通期	集中	石谷治寛		
	専門語学演習(英語)B	1		1	後期		石松紀子		
必 修 科 目	造形総合演習Ⅰ	1	3	1	後期		城市真理子 石松紀子 石谷治寛		
	造形総合演習Ⅱ	1		2	前期				
	専門語学演習(英語)A	1		1	前期		石松紀子		
基 礎 理 論 科 目	美術史特講(日本)A	2	8	1・2	前期		城市真理子		
	美術史特講(日本)B	2		1・2	後期		城市真理子		
	美術史特講(東洋・工芸)A	2		1・2	前期	集中	—	2026年度は開講しない	
	美術史特講(東洋・工芸)B	2		1・2	通期	集中	西谷功		
	美術史特講(西洋)A	2		1・2	通期	集中	伊藤拓真		
	美術史特講(西洋)B	2		1・2	通期	集中	藤村拓也		
	美術史特講(現代)A	2		1・2	前期		石松紀子		
	美術史特講(現代)B	2		1・2	後期		石松紀子		
	美学特講A	2		1・2	前期		石谷治寛		
	美学特講B	2		1・2	後期		石谷治寛		
研 究 科 開 設 科 目	選 択 必 修 科 目	造 形 綜 合 研 究	16	日本画研究Ⅰ	8	1	通期	今村雅弘	
				日本画研究Ⅱ	8	2	通期	今村雅弘	
				日本画研究(含古典研究)Ⅰ	8	1	通期	前田力	
				日本画研究(含古典研究)Ⅱ	8	2	通期	前田力	
				油絵研究AⅠ	8	1	通期	石黒賢一郎	
				油絵研究AⅡ	8	2	通期	石黒賢一郎	
				油絵研究BⅠ	8	1	通期	志水見王	
				油絵研究BⅡ	8	2	通期	志水見王	
				彫刻研究AⅠ	8	1	通期	田中圭介	
				彫刻研究AⅡ	8	2	通期	田中圭介	
	彫刻研究BⅠ	8	1	通期	岩崎貴宏				
	彫刻研究BⅡ	8	2	通期	岩崎貴宏				
	造形計画研究Ⅰ	8	1	通期	大塚智嗣				
	造形計画研究Ⅱ	8	2	通期	大塚智嗣				
	現代表現研究Ⅰ	8	1	通期	古堅太郎				
	現代表現研究Ⅱ	8	2	通期	古堅太郎				
	芸術学研究Ⅰ	8	1	通期	城市真理子				
	芸術学研究Ⅱ	8	2	通期	城市真理子				
	選 択 必 修 科 目	造 形 特 別 研 究	2	日本画材料技法演習	2	1・2	後期	前田力	
				油絵材料技法演習	2	1・2	通期	石黒賢一郎	
環境造形演習				2	1・2	通期	集中	田中圭介	
視覚造形演習				2	1・2	通期	中村圭		
立体造形演習				2	1・2	通期	藤江竜太郎		
映像メディア造形演習				2	1・2	通期	笠原浩		
金属造形演習				2	1・2	通期	永見文人		
染織造形演習				2	1・2	通期	野田睦美		
漆造形演習				2	1・2	通期	大塚智嗣		
現代美術特別演習				2	1・2	通期	古堅太郎		
計	54科目		33単位						

【博士前期課程資料】

- ・主・副指導教員希望届
- ・博士前期課程研究計画書
- ・指導教員変更願
- ・アドバイザー教員希望届
- ・造形応用特別研究実施要項
- ・修了作品等審査願
- ・修士論文審査願

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究領域 _____ 領域

学籍番号 _____

氏 名 _____

主 指 導 教 員 希 望 届

下記のとおり希望いたしますので、届け出いたします。

記

研 究 室	研究室名	
	主指導教員名	
研究科在学中の研究題目とその概要		
題 目		
研 究 概 要		

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

2023年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究領域 _____ 領域

学籍番号 _____

氏 名 _____

主 指 導
教 員 名 _____

副 指 導 教 員 希 望 届 【芸術実技研究】

下記のとおり希望いたしますので、届け出いたします。

記

実 技	研究室名	
	副指導教員名	
	研究室名	
	副指導教員名 (※希望する場合)	
理 論	副指導教員名	
研究科在学中の研究題目とその概要		
題 目		
研 究 概 要		

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究領域 芸術理論領域

学籍番号 _____

氏 名 _____

主 指 導
教 員 名 _____

副 指 導 教 員 希 望 届 【芸術理論領域】

下記のとおり希望いたしますので、届け出いたします。

記

理 論	研究室名	美 学 美 術 史
	副指導教員名	
	副指導教員名	
実 技	研究室名	
	副指導教員名 (※希望する場合)	
研究科在学中の研究題目とその概要		
題 目		
研 究 概 要		

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程
 _____年度 研究計画書 【芸術実技研究】

専攻 芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻
 研究分野 _____ 研 究
 研究室 _____
 学籍番号 _____
 氏 名 _____

実 技	主指導教員	
	副指導教員	
	副指導教員	
理 論	副指導教員	

研究テーマ	
概 要	1 研究目的、2 作品・論文の概要、3 スケジュール、4 これまでの研究活動の実績、5 その他の各項目について記載すること。本票に書ききれない場合は別紙添付のこと。

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程

_____年度 研究計画書 【芸術理論研究】

専攻 芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究分野 芸術理論研究

研究室 美学美術史

学籍番号 _____

氏名 _____

理論	主指導教員	
	副指導教員	
	副指導教員	
実技	副指導教員	

研究テーマ	
概要	1 研究目的、2 論文の概要、3 スケジュール、4 これまでの研究活動の実績、5 その他 の各項目について記載すること。本票に書ききれない場合は別紙添付のこと。

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究分野 _____ 研 究

学籍番号 _____

氏 名 _____

指 導 教 員 変 更 願 【芸術実技研究】

下記のとおり 主指導教員 副指導教員 の変更を希望いたしますので、ご許可ください。

記

区 分		変更前	変更後
実 技	研究室名		
	主指導教員名		
	研究室名		
	副指導教員名		
	研究室名		
	副指導教員名		
理 論	指導教員名		

* 上表の教員名は、変更前後の全教員の氏名を正確に記入すること。

* 下承認欄には、変更前後の該当教員及び主指導教員の押印を受けること。

承 認 欄				
	副指導教員(他)	副指導教員	理論指導教員	主指導教員
変 更 前				
変 更 後				

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究分野 芸術理論研究

学籍番号 _____

氏 名 _____

指 導 教 員 変 更 願 【芸術理論研究】

下記のとおり 主指導教員 の変更を希望いたしますので、ご許可ください。
副指導教員

記

区 分		変更前	変更後
理 論	主指導教員名		
	副指導教員名		
	副指導教員名		
実 技	副指導教員名		

- * 上表の教員名は、変更前後の全教員の氏名を正確に記入すること。
- * 下承認欄には、変更前後の該当教員及び主指導教員の押印を受けること。

承 認 欄				
変 更 前	副指導教員(実)	副指導教員(理)	副指導教員(理)	主指導教員
変 更 後	副指導教員(実)	副指導教員(理)	副指導教員(理)	主指導教員

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻

研究分野 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

主 指 導
教 員 名 _____

_____年度 ア ド バ イ ザ ー 教 員 希 望 届

下記のとおり情報科学研究科教員にアドバイザー教員となつていただくことを希望いたしますので、届け出いたします。

記

研究科名	情報科学研究科
アドバイザー教員名	
アドバイスを受ける理由	

* この書類は、本年度内に随時、事務局教務グループへ提出することができる。

芸術学研究科「造形応用特別研究」実施要項

1. [概要]

将来、作家、デザイナー、教育者などの専門家として、各領域において指導的な役割を果たす際に重要な資質となる創造性、自主性を養うことを目的とした研究で、芸術学研究科の学生がプロジェクトに参画し、選定した課題について創作・研究する。

2. [申請資格]

芸術学研究科学生を申請資格者とし、複数名で編成する場合は、代表者を定めるものとする。既履修者のプロジェクトへの協力参加は認めるが、重複して単位を認定しない。

3. [研究の申請]

研究プロジェクトの申請者は、「研究計画書」を事務局教務・学部運営室に提出する。なお、申請にあたっては、研究の指導・助言を希望する主たる指導教員に事前の承諾を得ておくこと。

4. [研究の実施]

研究プロジェクトは、主たる指導教員の助言・指導を受けて実施する。

5. [研究終了の報告]

プロジェクトが終了したときは、実施者は速やかに「研究報告書」を主たる指導教員へ提出する。

6. [単位の認定]

主たる指導教員は、提出された「研究報告書」の内容を基に成績を総合的に評価するとともに、速やかに「研究報告書」を芸術学研究科教務委員会へ提出する。

年度 芸術学研究科「造形応用特別研究」研究計画書

所 属 (学籍番号)	()	氏 名	印
研究課題名			
研究計画			
<p>プロジェクト実施の時期、場所、概要、実施目的、内容の詳細、本学以外の参加者がいる場合はその内訳等について記載すること。記載内容が多くなる場合は、別紙により補足することも可。</p>			
研究組織（研究代表者も記入すること。）			
所 属 (学籍番号)	氏 名	役 割 分 担	
合計 名			
希望する主たる指導教員			
所属・職	氏 名	主たる指導教員承諾欄	
		主たる指導教員として指導・助言することに差し支えありません。	
		印	

* 必要に応じて研究内容が分かる参考資料を添付すること。

年度 芸術学研究科「造形応用特別研究」研究報告書

年 月 日

所 属 (学 籍 番 号)		氏 名	⑩
研 究 課 題 名			
研究組織（研究代表者も記入すること。）			
所 属 (学籍番号)	氏 名	役 割 分 担	
合 計 名			
主たる指導教員			
所 属 ・ 職	氏 名	⑩	
提出物			
<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の概要（A4用紙数枚に要旨をまとめたもの） プロジェクトの概要が分かる資料（写真、パンフレット等） 			
※ 主たる指導教員使用欄		成績評価	

※欄は記入しない。

第1号様式

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長 殿

広島市立大学大学院芸術学研究科

博士前期課程造形芸術専攻

研究分野 _____ 研究

学籍番号 _____

氏 名 _____

修了作品等審査願

広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了の認定を受けるため、下記関係書類を提出いたしますので、審査下さるようお願いいたします。

記

修了作品等目録 4通（原本1、写し3）

研究報告書（小論文） 3通（原本1、写し2）

以上

この審査願を3通準備し、指定の期日までに第2号様式と共に事務局芸術学部分室まで提出すること。

修了作品等目録

研究分野	研究	氏名	
研究報告書（小論文）題目 _____			
修了作品目録			
研究作品 1			
作品名 _____			
サイズ等 _____			
材質等 _____			
制作年 _____			
研究作品 2			
作品名 _____			
サイズ等 _____			
材質等 _____			
制作年 _____			
研究作品 3			
作品名 _____			
サイズ等 _____			
材質等 _____			
制作年 _____			
研究作品 4			
作品名 _____			
サイズ等 _____			
材質等 _____			
制作年 _____			

- 備考 1 論文題名が外国語の場合は訳を付すること。
 2 研究作品は、1点以上提出すること。

第3号様式

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長 殿

広島市立大学大学院芸術学研究科

博士前期課程造形芸術専攻

研究分野 芸術理論研究

学籍番号 _____

氏 名 _____

修 士 学 位 論 文 審 査 願

広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了の認定を受けるため、下記関係書類を提出いたしますので、審査下さるようお願いいたします。

記

論文要旨（2000字以内） 3通

学位論文 3通

論文 題目

論文題名が外国語の場合は訳を付すること。

以 上

この審査願を3通準備し、指定の期日までに第2号様式と共に事務局芸術学部分室まで提出すること。

博 士 後 期 課 程

【博士後期課程について】

I 芸術学研究科博士後期課程の概要

1 教育・研究の特色

(1) 実践と歴史的・理論的研究の結合

各専門領域の基礎の探究を基に領域を超えた横断的な研究を行い、造形芸術の総合的研究を果たすことを目標にしつつ、幅広い表現能力を開発することを目指します。そのために、造形芸術の実践に歴史的・理論的研究を結び合わせる方式を試みます。

(2) 実技を踏まえた理論的な習熟

各領域の実技を踏まえ理論的な習熟を目指し、それによって高度な創造と表現、享受と理解の学術的修練と伸長を図ります。

(3) 地域の造形芸術活動の推進

高度な造形芸術に関する研究者を養成し、広く地域の造形芸術活動の活性化と蓄積を推進し、学校や社会において美と知の融合する美術教育をも実践することができるように尽力することとします。

(4) コンピュータ、映像メディア等の統合造形活動

情報化の時代においてコンピュータによる造形表現、映像メディア等の多様な表現の技術や研究を深め、地域の多岐にわたる総合造形活動を活性化し、強化していきます。

(5) 留学生や社会人の積極的な受入れ

国際化の進展やリカレント教育の充実といった時代の要請に応えるため、留学生や社会人の積極的な受入れに努めます。

2 養成する人材

本研究科は以下のような人材の養成を目指します。

(1) 芸術家及び研究者の養成

芸術に関する高度な創造・表現の技術と理論を研究し、芸術文化に関する幅広い識見を有する芸術家及び研究者を養成します。

(2) 創造性豊かで国際的視野を有する人材の養成

他領域との融合を重視し、学際的な識見を持ち、円満な人格と豊かな人間性に貫かれ、あわせて時代に対応する創造性豊かで国際的視野を有する人材を養成します。

3 課程編成の考え方

各領域の実技を踏まえ理論的な習熟を目指し、より高度で幅広い表現の力の開発を図るとともに、各領域を横断する研究を含めてより広く、より総合的な教育研究を行います。

この意味から、博士後期課程の教育研究組織は、複数の専攻に分割する構成を取らず、総合造形芸術専攻の1専攻とします。

4 編成と研究内容

博士後期課程の研究領域の編成とその研究内容は次のとおりです。

(1) 日本画研究領域

実技と理論を通して創作研究を行う。日本画の伝統的な材料、技法、作画構成、精神性等に及ぶ特質を研究するとともに、芸術に関する高度な学識を養い、新たな日本画表現の創造を探究し、作家としての自立を目指す。併せて、専門の領域を超えた横断的な研究を行い、幅広く表現能力の開発を目指す。

(2) 油絵研究領域

実技と理論を通して創作研究を行う。油彩の技法及び材料、西洋画の絵画構造や理論の研究を深化させるとともに、芸術に関する高度な学識を身につけ、現代における独自の造形表現を探究し、作家としての自己確立を目指す。併せて、専門研究領域に関連する他領域との横断的な研究を行うなかで、幅広い識見と表現能力の開発を目指す。

(3) 彫刻研究領域

実技と理論の両面を通して、彫刻芸術の創造、研究を行う。彫刻を成立させるための諸要素に対する理論的考察を行うとともに、造形表現の独自性、空間との関連性を主に新しい彫刻の創造、研究を行う。他領域との融合を含めた複合的研究を行い、時代に対応する国際的な視野を持つ人材を育成する。

(4) 現代表現研究領域

現代美術家として、作品コンセプトの構築、プレゼンテーションの充実、サイトスペシフィックな意識の徹底をはかり、理論、キュレーション、マネジメント等にも精通した人材育成を目指すと共に、他領域との横断的な研究を行い、現代に対応できる国際的な視点を有するパイオニア的存在を育成する。

(5) 造形計画研究領域

造形計画研究における創作研究の基礎となる表現、技法、素材、精神性等の歴史的蓄積をより高次元で理論的に考察するとともに、進展する社会や時代に対応した各研究分野の新たな造形表現を目指す。

II 入学から修了まで

I 主指導教員と副指導教員の決定

博士後期課程においては、主指導教員が徹底した個別的研究指導を行い、副指導教員はこれを補佐します。

学生は、「主指導教員希望届」を大学事務局教務グループ（以下「事務局教務グループ」という。）へ提出してください。副指導教員については、主指導教員と相談の上、実技系教員1名、理論系教員1名を含む2名以上を選び、その教員の了承を得て「副指導教員希望届」を事務局教

務グループへ提出して下さい。「主指導教員希望届」「副指導教員希望届」については、別に定める期日までに手続きを行ってください(様式は39・40頁参照)。

なお学生は、指導教員の変更を希望する場合には、主指導教員及び副指導教員の承認を得たうえで所定の「指導教員変更願」を研究科長に提出することができます。研究科長は「指導教員変更願」が提出された場合には、主指導教員の所見等を参考にし、指導教員の変更を認めることができます。(様式は42頁参照)。

2 アドバイザー教員について

希望する場合は、情報科学研究科の教員に「アドバイザー教員」となっていただき、届け出た上で、アドバイス指導を受けることができます。「アドバイザー教員希望届」を、随時、事務局教務グループ提出してください(様式は43頁参照)。届の提出に当たっては、主指導教員および情報科学研究科の当該教員の承認を必要とします。

3 履修手続について

履修手続は全研究科共通に掲載の【履修】を参照の上、所定の期日までに行ってください。

4 修了必要単位数について

博士後期課程における修了必要単位数は14単位です。

履修区分	授業科目	履修年次			履修単位数	
		1年次	2年次	3年次	小計	合計
必修科目	創作総合研究Ⅰ ※1	2			2	12
	創作総合研究Ⅱ ※1		2		2	
	創作総合研究Ⅲ ※1,2			2	2	
	領域横断特別研究 ※3		2		2	
	特別造形総合演習Ⅰ ※4	2			2	
	特別造形総合演習Ⅱ ※4		2		2	
選択科目	美学特講		2		2	2
	日本美術史特講		2		2	
	西洋美術史特講		2		2	
	東洋美術史特講(彫刻・工芸)		2		2	
	現代美術史特講		2		2	
合計		—	—	—	14	

※1 創作総合研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 主として主指導教員と副指導のもとに実技制作の研究を行う。

※2 領域横断特別研究 実技系あるいは理論系教員の指導のもと、二つ以上の異なる研究分野のテーマを学生の参加により設定し、研究を行う。

※3 特別造形総合演習Ⅰ・Ⅱ 研究領域担当教員及び理論系教員のもとで演習を行い、芸術についての思想的訓練を行う。

これらの必修科目は後期課程担当教員複数で担当し、実技系・理論系の教員が緊密な交流と連携のもとに教育研究を行います。

5 修了要件について

博士後期課程を修了するためには、原則として本課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修了作品及び論文を提出し、その審査と試験に合格しなければなりません。

6 研究計画書の作成と提出について

学生は、年度当初に主指導教員の指導に基づき、研究目的、作品・論文の概要、今後のスケジュール等について記載した「研究計画書」を作成し、所定の期日までに事務局教務グループへ提出して下さい。研究計画書の提出にあたっては、主指導教員及び副指導教員の承認を得てください(様式は41頁参照)。

指導教員は、研究計画に基づき、学生に対し修了制作及び当該作品に係る制作意図や背景、技法、素材に関する研究等をまとめた論文作成のための研究指導を行います。なお、論文については理論系の教員が指導します。

7 博士学位の申請手続きについて

手続きの流れは以下のとおりです（詳細は44頁からの「広島市立大学博士学位規程芸術学研究科内規」及び59・60頁のスケジュールを参照してください）。

(1) 博士候補者となった者は、主指導教員の指導に基づき博士学位論文及び研究作品（以下「学位論文等」という。）を作成・制作し、学位論文等予備審査の申請を行うことになります。所定の期日までに事務局教務グループへ申請してください。

(2) 研究科委員会は、申請に基づき、当該博士候補者の主指導教員を含む研究科委員会の委員3人以上から成る学位論文等予備審査委員会（以下「予備審査委員会」という。）を設置します。

(3) 予備審査委員会の委員長は、審査の結果を研究科委員会に報告します。研究科委員会では、学位審査に値すると判断した場合、博士候補者が博士学位授与の申請をすることを許可します。許可を受けた者は、所定の期日までに事務局教務グループへ学位審査の申請を行ってください。

博士学位論文の予備審査の結果不合格となった者は、次回以降の予備審査に改めて申請することができます。

8 学位論文等の審査及び最終試験の実施について

(1) 研究科委員会は、博士候補者に博士学位授与の申請をすることを許可したときは、学位論文等審査委員会（以下「本審査委員会」という。）を設置します。本審査委員会は、上記の予備審査委員会の委員を中心に編成し、予備審査委員会の委員長が本審査委員会の委員長となります。

(2) 本審査委員会は、審査と最終試験（口述試験その他審査委員会が必要とする試験）を実施し、その結果を研究科委員会に報告します。

【論文等審査基準】

論文等の審査に当たっては、以下の観点に基づき、総合的に判定を行います。

【博士学位論文審査基準】

1. 研究テーマと問題設定が妥当であること。
2. 先行研究や関連資料を十分に踏まえていること。
3. 設定された問題を整合性と一貫性をもって考察していること。
4. 研究が独創性を有すること。

【研究作品審査基準】

1. 学位授与にふさわしい質と量があること。
2. 独自の研究を踏まえた高度の創造性を有すること。
3. 素材や技術の十分な研究を踏まえた高度の表現力を有すること。
4. 社会の熟成と文化の発展に寄与する将来性を有すること。
5. 国内又は国外で作品の発表を行っていること。

9 博士学位授与の可否の決定について

研究科委員会では、本審査委員会の結果報告を受けて審議を行い、博士学位授与の可否を決定します。

10 学位について

修了必要単位数を満たした上で、博士学位論文が上記の審査及び最終試験に合格すると、研究科委員会の判定を経て学位が授与されます。学位の名称は「博士(芸術)」となります。

11 学位授与後の公表について

本学において博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を公表することが義務付けられます。研究作品は研究科委員会の定めるところにより、一定期間公開又は展示することとなっています。博士の学位を授与された学生は、主指導教員の指導に基づき、これらを遅滞なく実施してください。

12 論文等の提出による学位審査について

大学院博士後期課程に3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、研究指導を受けた後退学した者は、学位論文等の提出により、博士の学位の授与を申請することができます(詳細は45頁参照)。

また、上記の者は、退学したときから1年以内に学位論文等を提出し、博士の学位を申請するときには、審査手数料を免除することができます(詳細は大学院関係諸規定を参照)。

Ⅲ 指導教員及び授業の概要

Ⅰ 芸術学研究科(博士後期課程)指導教員一覧

専攻	研究領域	研究分野	指導教員		
総合造形芸術	日本画	日本画 A	教授	今村雅弘	
			教授	荒木亨子	
		日本画 B	教授	前田力	
	油絵	油絵 A	教授	石黒賢一郎	
			教授	釣谷幸輝	
		油絵 B	教授	志水児王	
	彫刻	彫刻	教授	田中圭介	
			准教授	岩崎貴宏	
	現代表現	現代表現	准教授	古堅太郎	
	造形計画領域		視覚造形	教授	中村圭
			立体造形	准教授	藤江竜太郎
			映像メディア造形	教授	笠原浩
				准教授	城井文
			金属造形	教授	永見文人
				准教授	内堀豪
			染織造形	教授	野田睦美
			漆造形	教授	大塚智嗣
准教授	青木伸介				

理論担当指導教員

造形総合理論	美学美術史	准教授	城市真理子
		准教授	石松紀子
		准教授	石谷治寛

2 芸術学研究科(博士後期課程)授業科目の一覧

区分	講義名	単位数	必要単位数	年次	履修期	形態	代表教員名	
研究科開設科目	創作総合研究Ⅰ	2	2	1	通期		今村雅弘	
							前田力	
							荒木亨子	
							石黒賢一郎	
							志水兎王	
							釣谷幸輝	
							田中圭介	
							岩崎貴宏	
							古堅太郎	
							中村圭	
							藤江竜太郎	
							笠原浩	
							城井文	
							永見文人	
内堀豪								
野田睦美								
大塚智嗣								
青木伸介								
	創作総合研究Ⅱ	2	2	2	通期		同上	
	創作総合研究Ⅲ	2	2	3	通期		同上	
	領域横断特別研究	2	2	1・2	通期		笠原浩	
	特別造形総合演習Ⅰ	2	2	1	通期		城市真理子	
	特別造形総合演習Ⅱ	2	2	2	通期		城市真理子	
	美学特講	2	2	1・2	通期		石谷治寛	
	日本美術史特講	2		1・2	通期		城市真理子	
	西洋美術史特講	2		1・2	通期	集中	伊藤拓真/藤村拓也	
	東洋美術史特講(彫刻・工芸)	2		1・2	通期	集中	西谷功	
	現代美術史特講	2		1・2	通期		石松紀子	
計	12科目			14単位				

各講義の概要(シラバス)はいちばる(UNIPA)を確認すること。

【博士後期課程資料】

- ・主・副指導教員希望届
- ・博士後期課程研究計画書
- ・指導教員変更願
- ・アドバイザー教員希望届
- ・広島市立大学博士学位規程芸術学研究科内規

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻

学籍番号_____

氏 名_____

主 指 導 教 員 希 望 届

下記のとおり希望いたしますので、届け出いたします。

記

研究領域	研究領域名	
	主指導教員名	
研究科在学中の研究題目とその概要		
題目		
研究概要		

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻

学籍番号 _____

氏 名 _____

主 指 導
教 員 名 _____

副 指 導 教 員 希 望 届

下記のとおり希望いたしますので、届け出いたします。

記

実 技	研究領域名	
	副指導教員名	
理 論	副指導教員名	
研究科在学中の研究題目とその概要		
題 目		
研 究 概 要		

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

広島市立大学芸術学研究科博士後期課程
 ____年度 研究計画書

専攻 芸術学研究科博士後期課程 _____ 専攻

研究領域 _____

学籍番号 _____

氏名 _____

実 技	主指導教員	
	副指導教員	
理 論	副指導教員	

研究テーマ	
概 要	<p>1 研究目的、2 作品・論文の概要、3 スケジュール、4 これまでの研究活動の実績、5 その他の各項目について記載すること。本票に書ききれない場合は別紙添付のこと。</p>

* この書類は、指定の期日までに事務局教務グループへ提出すること。

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻

学籍番号_____

氏 名_____

指 導 教 員 変 更 願

下記のとおり 主指導教員 副指導教員 の変更を希望いたしますので、ご許可ください。

記

区 分		変更前	変更後
実 技	研究領域名		
	主指導教員名		
	研究領域名		
	副指導教員名		
理 論	指導教員名		

- * 上表の教員名は、変更前後の全教員の氏名を正確に記入すること。
- * 下承認欄には、変更前後の該当教員及び主指導教員の押印を受けること。

承 認 欄			
変 更 前	副指導教員	理論指導教員	主指導教員
変 更 後	副指導教員	理論指導教員	主指導教員

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長

広島市立大学芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻

研究分野 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

主 指 導
教 員 名 _____

____年度 アドバイザー 教員 希望 届

下記のとおり情報科学研究科教員にアドバイザー教員となつていただくことを希望いたしますので、届け出いたします。

記

研究科名	情報科学研究科
アドバイザー教員名	
アドバイスを受ける理由	

* この書類は、本年度内に随時、事務局教務グループへ提出することができる。

広島市立大学博士学位規程芸術学研究科内規

第1章 総則

(趣旨)

第1条 広島市立大学学位規程（以下「規程」という。）第19条の規定に基づき、この内規を定める。

第2章 課程博士のための学位審査 — 研究科博士後期課程修了認定のために行う学位審査 (学位論文等予備審査申請及び資格要件)

第2条 博士学位論文及び研究作品（以下「学位論文等」という。）を提出する予定の者は、予備審査のため、指導教員の承認を得て、次の書類及び研究作品を研究科長に提出するものとし、提出の時期は別に定める。

- | | |
|-------------------|-------------|
| (1) 博士学位論文等予備審査願 | 5通（原本1、写し4） |
| (2) 論文等目録 | 5通（原本1、写し4） |
| (3) 論文 | 5通 |
| (4) 論文要旨（2000字以内） | 5通 |
| (5) 履歴書 | 5通（原本1、写し4） |

2 予備審査の申請を提出する者は、別に定める研究報告書の提出及び研究発表を行うこととする。

(予備審査)

第3条 研究科委員会は、第2条の規定による書類が提出されたときは、その内容が学位審査に値するか否かを判定するため、学位論文等予備審査委員会（以下「予備審査委員会」という。）を設置し、予備審査を行う。

- 2 審査委員会に主査を置き、主査は、原則として、当該学位申請者の属する研究領域の研究指導教員とする。
- 3 予備審査委員会は、主査を含む博士後期課程担当教員の中から3名以上で構成する。
- 4 予備審査委員会は、前項で規定する予備審査委員会の委員に、学内外の教員等を加えることができる。

(結果報告)

第4条 予備審査委員会は、予備審査を終了したときは、文書で研究科委員会に報告し、その承認を得るものとする。

(学位論文等の提出時期及び資格要件)

第5条 学位論文等の提出期限は、別途定める。

- 2 学位論文等を提出することができる者は、次の各号にすべて該当する者とする。
 - (1) 第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判定された者
 - (2) 博士後期課程において所定の単位を修得した者又は論文を提出する日の属する学年末までに、所定の単位を修得する見込みが確実な者で、必要な研究指導を受けた者
- 3 第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判定された者が、博士

学位論文等の提出に至らなかった場合又は学位論文等が認められなかった場合は、改めて予備審査を受けるものとする。

(学位論文等の提出手続)

第6条 第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判断されたものが学位論文等を提出する場合は、次の書類及び研究作品を指導教員の承認を得て研究科長に提出するものとする。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| (1) 博士学位論文等審査願 | 5通 (原本1、写し4) |
| (2) 論文等目録 | 5通 (原本1、写し4) |
| (3) 学位論文 | 5通 |
| (4) 論文要旨 (2000字以内) | 5通 |
| (5) 履歴書 | 5通 (原本1、写し4) |
| (6) 学位論文等予備審査終了通知書 (写し) | 1通 |

(学位論文等の受理)

第7条 研究科長は、前条の規定により学位論文等の提出があったときは、研究科委員会に受理すべきか否かを諮るものとする。

(審査委員会)

第8条 研究科委員会は、学位論文等の受理を認めた場合は、速やかに博士学位論文等審査委員会(以下「審査委員会」という。)を編成する。

- 2 審査委員会は第3条で規定する予備審査委員会の委員に学内外の教員等を加えることができる。
- 3 審査委員会は、学位論文等の審査と最終試験(口述試験その他審査委員会が必要とする試験)を実施し、その結果を研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

第3章 論文博士のための学位審査 — 論文等の提出による学位審査

(学位論文等の予備審査申請及び資格要件)

第9条 規程第3条第3項の規定に基づき、論文提出による博士の学位の授与を申請する予定の者は、予備審査のため、次の書類及び研究作品を研究科長に提出するものとする。

- | | |
|--------------------|--------------|
| (1) 博士学位論文等予備審査願 | 5通 (原本1、写し4) |
| (2) 論文等目録 | 5通 (原本1、写し4) |
| (3) 論文 | 5通 |
| (4) 論文要旨 (2000字以内) | 5通 |
| (5) 履歴書 | 5通 (原本1、写し4) |
- 2 前項に規定する予備審査の申請を提出することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 大学院博士後期課程に3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、研究指導を受けた後退学した者
 - (2) 大学院博士前期課程の修了者で、4年以上の研究歴を有する者
 - (3) 前各号に掲げる者以外の者で、同等以上の研究歴を有すると研究科委員会が認めた者

(予備審査)

第10条 研究科委員会は、第9条第1項の規定による書類が提出されたときは、その内容が学位審査に値するか否かを判定するため、学位論文等予備審査委員会（以下「予備審査委員会」という。）を設置し、予備審査を行う。

- 2 審査委員会に主査を置き、主査は、原則として、当該学位申請者の属する研究領域の研究指導教員とする。
- 3 予備審査委員会は、主査を含む博士後期課程担当教員の中から3名以上で構成する。
- 4 予備審査委員会は、前項で規定する予備審査委員会の委員に、学内外の教員等を加えることができる。

(結果報告)

第11条 結果報告については、第4条の規定を準用する。

(学位論文等の提出手続)

第12条 第10条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判断された者が学位論文等を提出する場合は、次の書類及び研究作品を研究科長を経て学長に提出するものとする。

- | | |
|-------------------------|-------------|
| (1) 学位申請書 | 5通（原本1、写し4） |
| (2) 論文等目録 | 5通（原本1、写し4） |
| (3) 学位論文 | 5通 |
| (4) 論文要旨（2000字以内） | 5通 |
| (5) 履歴書 | 5通（原本1、写し4） |
| (6) 最終学校の卒業証明書又は卒業証書の写し | 1通 |

（大学院修了証明書又は学位記の写し）

- (7) 研究期間を証する指導教授又はこれに準ずる者の証明書 1通
- 2 前項の規定にかかわらず、本学芸術学部卒業者及び本学芸術学研究科修了者でその研究歴が本学に限られるものについては、前項第6号及び第7号に規定する書類は必要としない。

(学位論文等の受理)

第13条 学位論文等の受理については、第7条の規定を準用する。

(審査委員会)

第14条 審査委員会の設置については、第8条第1項の規定を準用する。

- 2 審査委員会は第10条で規定する予備審査委員会の委員に学内外の教員等を加えることができる。
- 3 審査委員会は、学位論文等の審査及び試験と併せて学力の確認を行い、その結果を研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

(学力の確認方法)

第15条 前条に定める学力の確認は、学位申請者が本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有するか否かについて口述試験及びその他審査委員会が必要とする試験を

実施する。ただし、研究科委員会が学歴、業績等により学位申請者の学力の確認を行い得ると認めるときは、試験の全部又は一部を省略することができる。

(書類の様式)

第16条 関係書類の様式は、予備審査に関する別記予審様式第1号から第6号、学位論文等審査に関する別記様式第1号から第7号までのとおりとする。

(その他)

第17条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が別に定める。

附 則 略

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長 殿

広島市立大学大学院芸術学研究科
博士後期課程総合造形芸術専攻
氏名

博 士 学 位 論 文 予 備 審 査 願

広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程博士学位論文審査申請の許可を受けるため、下記関係書類を提出いたしますから、審査下さるようお願いいたします。

記

論文等目録	5通（原本1、写し4）
論文	5通
論文要旨（2000字以内）	5通
履歴書	5通（原本1、写し4）

以 上

備考 審査願等提出書類の通数は、指導教員の数に応じて変更する。

第3号様式（予備審査）

履 歴 書			
ふりがな 氏 名	男・女		
生年月日			
本 籍 (都道府県名)			
現 住 所			
学 歴	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
職 歴	年	月	日
	年	月	日
研究歴	年	月	日
	年	月	日
賞 罰			
上記のとおり相違ありません。			
年 月 日			
氏 名			

- 備考 1 履歴事項は、高等学校卒業後の履歴について、年次を追って記載する。
 2 大学院博士課程の教育課程を終え退学した者は、単位取得証明書を添付すること。

第1号様式

年 月 日

広島市立大学芸術学研究科長 殿

広島市立大学大学院芸術学研究科
博士後期課程総合造形芸術専攻
氏名

博 士 学 位 論 文 等 審 査 願

広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了の認定を受けるため、広島市立大学学位規定第5条第1項の規定に基づき、下記関係書類を提出いたしますので、審査下さるようお願いします。

記

論文等目録	5通（原本1、写し4）
学位論文	5通
論文要旨（2000字以内）	5通
履歴書	5通（原本1、写し4）

以 上

備考 審査願等提出書類の通数は、指導教員の数に応じて変更する。

論文等目録

	氏名	
論文 題目		
研究作品 題目		
サイズ等		
材質等		
制作年		
保管場所		

- 備考 1 論文題名が外国語の場合は訳を付すること。
 2 研究作品は、1点以上提出するものとし、各作品の写真を添付すること。

第3号様式

履 歴 書			
ふりがな 氏 名	男・女		
生年月日			
本 籍 (都道府県名)			
現 住 所			
学 歴	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
	年	月	日
職 歴	年	月	日
	年	月	日
研究歴	年	月	日
	年	月	日
賞 罰			
上記のとおり相違ありません。			
年 月 日			
氏 名			

- 備考 1 履歴事項は、高等学校卒業後の履歴について、年次を追って記載する。
 2 大学院博士課程の教育課程を終え退学した者は、単位取得証明書を添付すること。

年 月 日

広島市立大学長 様

氏名

学 位 申 請 書

貴学学位規程第5条第2項の規定に基づき、学位論文等に審査手数料 円

を添えて、博士（ ）の学位の授与を申請いたします。

【専任教員・非常勤講師プロフィール】

専任教員



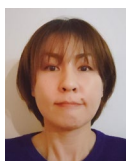
今村 雅弘 Masahiro Imamura
教授 日本画
東京藝術大学大学院美術研究科博士課程単位取得満期退学
一般社団法人創画会会員



前田 力 Chikara Maeda
教授 日本画
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
公益財団法人日本美術院同人



荒木 亨子 Kyoko Araki
教授 日本画
東京藝術大学大学院美術研究科博士課程
一般社団法人創画会会員



古賀 くらら Kurara Koga
講師 日本画
広島市立大学大学院芸術学研究科博士課程
日本画家



志水 兎王 Jio Shimizu
教授 油絵
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
美術家



石黒 賢一郎 Kenichiro Ishiguro
教授 油絵
多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程
美術家



釣谷 幸輝 Kouki Tsuritani
教授 油絵
金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程
版画家



フィン, マシュー Matthew Phinn
講師 油絵
The University of Leeds, BA Fine Art 卒業
画家



大東 忍 Shinobu Daito
講師 油絵
愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程



大熊 弘樹 Hiroki Okuma
講師 油絵
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
美術家



田中 圭介 Keisuke Tanaka
教授 彫刻
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
彫刻家



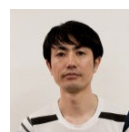
岩崎 貴宏 Takahiro Iwasaki
准教授 彫刻
Edinburgh College of Art, M.F.A 修了



大島 由起子 Yukiko Ohshima
講師 彫刻
武蔵野美術大学大学院美術専攻彫刻コース修了
彫刻家



山本聖子 Seiko Yamamoto
講師 彫刻
京都芸術大学芸術研究科芸術表現専攻修了
美術家



古堅 太郎 Taro Furukata
准教授 現代表現
ベルリン・ヴァイセンゼー美術大学大学院彫刻科修士課程修了
美術家



長坂 有希 Aki Nagasaka
講師 現代表現
国立造形美術大学シュテーデルシューレ・
フランクフルト修士課程修了
香港城市大学クリエイティブ・メディア学科博士課程研究員



中村 圭 Kei Nakamura
教授 視覚造形
広島市立大学大学院芸術学研究科博士課程
デザイナー



鹿田 義彦 Yoshihiko Shikada
講師 視覚造形
広島市立大学大学院芸術学研究科博士課程
写真作家



藤江 竜太郎 Ryutarō Fujie
准教授 立体造形
広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程
造形作家



笠原 浩 Hiroshi Kasahara
教授 映像メディア造形
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
映像デザイナー



城井 文 Shiroi Aya
准教授 映像メディア造形
アニメーション作家



永見 文人 Fumito Nagami
教授 金属造形
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
現代工芸美術家協会本会員、日展会友



内堀 豪 Go Uchibori
准教授 金属造形
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
金属造形作家



城市 真理子 Mariko Joichi
准教授 造形総合理論
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程
文化表現論専攻 日本・東洋美術史



野田 睦美 Mutsumi Noda
教授 染織造形
京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程
染織造形作家



石松 紀子 Noriko Ishimatsu
准教授 造形総合理論
九州大学大学院比較社会文化学府博士課程
国際社会文化専攻 現代美術史



大塚 智嗣 Tomotsugu Otsuka
教授 漆造形
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
造形作家



石谷 治寛 Haruhiro Ishitani
准教授 造形総合理論
京都大学人間・環境学研究所博士課程
共生人間学専攻 美学



青木 伸介 Shinsuke Aoki
准教授 漆造形
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程
漆造形作家

非常勤講師

石原 孟 東京藝術大学 准教授	日本画研究 I	外館 和子 多摩美術大学 教授	染織造形演習
山田 裕子	日本画研究(含古典研究) I	松原 龍一 新居浜市美術館 館長	染織造形演習
有田 巧 (元)崇城大学 教授	油絵研究A I 油絵材料技法演習	有田 やえ	染織造形演習
宮内 由紀子 有限会社 得応軒 代表取締役	日本画材料技法演習	西谷 功 国際日本文化研究センター 准教授	美術史特講(東洋・工芸)A/ 東洋美術史特講(彫刻・工芸)
島村 文也 株式会社島工芸 代表取締役	環境造形演習	伊藤 拓真 九州大学大学院人文科学研究院 准教授	美術史特講(西洋)A/ 西洋美術史特講
井田 大介 株式会社イダグイスクスタジオ 代表取締役	環境造形演習	藤村 拓也 町田市立国際版画美術館 学芸員	美術史特講(西洋)B/ 西洋美術史特講
石田 和人 石田和人デザインスタジオ	立体造形演習		
江頭 誠	立体造形演習		

2026年4月1日現在

【共通資料】

- I 2026年度芸術学研究科論文指導日程について
- II 各種届出資料提出期限について
- III 広島市立大学大学院学則別表

2026 年度 芸術学研究科論文指導・学位審査等日程

D は博士後期課程
M は博士前期課程
数字は学年を表す

日時と内容

- | | |
|--|-----------------------|
| ○ 5月 13日(水) 10:40 から(城市・石松・石谷担当)
「造形総合演習Ⅱ」「特別造形総合演習Ⅰ」「同Ⅱ」合同演習 | D2, D1, M2 |
| ○ 5月 20日(水) 14:40 から 芸3F 演習
「領域横断特別研究」第1回合同研究室 究授業(研究計画発表) | D1 |
| ☆ 6月 10日(水) 9:00 から 芸3F 演習室
予備審査申請に向けたプレゼンテーション | D3 |
| ◎ 7月 15日(水) 16:00 まで 提出先・芸術学部分室
「造形総合演習Ⅱ」課題の論文提出 | M2 |
| ○ 10月 7日(水) 10:40 から(城市・石松・石谷担当)
「造形総合演習Ⅰ」「特別造形総合演習Ⅰ」「同Ⅱ」合同演習 | D2, D1, M1 |
| ◎ 10月 2日(金) 16:00 まで 提出先・事務局教務グループ
博士後期予備審査願提出 | D3 |
| ○ 10月 14日(水) 15:00 から 芸3F 演習室
「領域横断特別研究」第2回合同研究授業(中間発表) | D1 |
| ◎ 12月 2日(水) 16:00 まで 提出先・芸術学部分室
「造形総合演習Ⅰ」「特別造形総合演習Ⅰ」「同Ⅱ」課題の論文提出 | D2, D1, M1 |
| ☆ 12月 9日(水) 9:00 から 芸3F 演習室
「特別造形総合演習Ⅰ」「同Ⅱ」プレゼンテーション | D2, D1
(M2も参加してよい) |
| ◎ 1月 5日(火) 16:00 まで 提出先・事務局教務グループ
本審査願提出 | D3 |
| ○ 1月 6日(水) 14:40 から 芸3F 演習室
「領域横断特別研究」第3回合同研究授業(最終発表) | D1 |
| ◎ 1月 7日(木) 16:00 まで 提出先・芸術学部分室
博士前期修了作品等審査願又は修士学位論文審査願提出 | M2 |
| ◎ 1月 22日(金) 16:00 まで 提出先・提出方法は別途指示
「領域横断特別研究」課題の報告書提出 | D1 |

2026年度 芸術学研究科論文指導等のスケジュール

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
博士前期 1年次							造形総合演習 I ○ 10/7 合同演習		◎ 12/2 課題論文提出				
博士前期 2年次		造形総合演習 II ○ 5/13 合同演習		◎ 7/15 課題論文提出						◎ 1/7 修了作品等審査願又は 修士学位論文審査願提出			審査申請書類は 26頁～参照
博士後期 1年次		○ 5/13 合同演習		特別造形総合演習 I				○ 10/7 合同演習		◎☆ 12/10 12/3 課題「(1年次)論文」提出			
		○ 5/20 第1回合同研究授業		領域横断特別研究				○ 10/14 第2回合同研究授業		○◎ 1/7 第3回合同研究授業	◎ 1/22 課題論文提出		
博士後期 2年次		○ 5/13 合同演習		特別造形総合演習 II				○ 10/7 合同演習		◎☆ 12/9 12/2 課題「(2年次)論文」提出			
博士後期 3年次			☆ 6/10 予備審査に向けた プレゼンテーション				◎ 10/2 予備審査 申請	☆ 予備審査の 審査・面接	○ 判定	◎ 1/5 本審査 申請	☆ 本審査の 審査・面接	○ 3/23 博士号授与	◇ 審査申請書類は 48頁～参照

各種提出書類について(2026年度)

研究指導及び修了作品等審査に係るのもの

■博士前期1年

書類名	提出期限	提出先
主導教員希望届	4月15日(水)17時	教務グループ
副指導教員希望届	4月15日(水)17時	教務グループ
研究計画書	4月24日(金)17時	教務グループ

■博士前期2年

書類名	提出期限	提出先	備考
研究計画書	4月24日(金)17時	教務グループ	
修了作品等審査願 修了作品目録 研究報告書(小論文)	2027年1月7日(木) 16時	芸術学部分室	芸術実技研究の学生対象
修士論文審査願 論文	2027年1月7日(木) 16時	芸術学部分室	芸術理論研究の学生対象

■博士後期1年

書類名	提出期限	提出先
主導教員希望届	4月15日(水)17時	教務グループ
副指導教員希望届	4月15日(水)17時	教務グループ
研究計画書	4月24日(金)17時	教務グループ

■博士後期2年

書類名	提出期限	提出先
研究計画書	4月24日(金)17時	教務グループ

■博士後期3年

書類名	提出期限	提出先	備考
研究計画書	4月24日(金)17時	教務グループ	
博士学位論文予備審査願等※	10月2日(金)16時	教務グループ	※詳細は広島市立大学博士学位規程芸術学研究科内規に掲載
博士学位論文審査願 ※(予備審査合格者のみ)	2027年1月5日(火) 16時	教務グループ	※詳細は広島市立大学博士学位規程芸術学研究科内規に掲載

◇授業に係る提出書類及び期限は担当教員の指示に従ってください。

(6) 芸術学研究科造形芸術専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
全研究科共通科目	人間論A(人文・社会科学)	1・2		2		(修了要件)
	人間論B(自然科学)	1・2		2		全研究科共通科目 4単位
	国際関係と平和	1・2		2		研究科開設科目
	ヒロシマと核の時代	1・2		2		基礎理論科目 8単位
	日本論	1・2		2		必修科目 3単位
	研究倫理	1・2		2		選択必修科目
	情報と社会	1・2		2		造形総合研究 16単位
	道具論	1・2		2		造形特別研究 2単位
	都市論	1・2		2		計33単位
基礎理論科目	美学特講A	1・2		2		合計33単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修了作品(研究報告書を含む)又は修士論文を提出し、その審査と試験に合格すること(選択科目は、全研究科共通科目に振り替える。)
	美学特講B	1・2		2		
	美術史特講(日本)A	1・2		2		
	美術史特講(日本)B	1・2		2		
	美術史特講(東洋・工芸)A	1・2		2		
	美術史特講(東洋・工芸)B	1・2		2		
	美術史特講(西洋)A	1・2		2		
	美術史特講(西洋)B	1・2		2		
	美術史特講(現代)A	1・2		2		
	美術史特講(現代)B	1・2		2		
必修科目	造形総合演習Ⅰ	1	1			
	造形総合演習Ⅱ	2	1			
	専門語学演習(英語)A	1	1			
科選択目	造形応用特別研究	1・2		2		
	専門語学演習(英語)B	1		1		
研究科開設科目	選択必修総合科目	日本画研究Ⅰ	1		8	
		日本画研究Ⅱ	2		8	
		日本画研究(含古典研究)Ⅰ	1		8	
		日本画研究(含古典研究)Ⅱ	2		8	
		油絵研究AⅠ	1		8	
		油絵研究AⅡ	2		8	
		油絵研究BⅠ	1		8	
		油絵研究BⅡ	2		8	
		彫刻研究AⅠ	1		8	
		彫刻研究AⅡ	2		8	
		彫刻研究BⅠ	1		8	
		彫刻研究BⅡ	2		8	
		造形計画研究Ⅰ	1		8	
		造形計画研究Ⅱ	2		8	
		現代表現研究Ⅰ	1		8	
		現代表現研究Ⅱ	2		8	
		芸術学研究Ⅰ	1		8	
		芸術学研究Ⅱ	2		8	
選択必修特別科目	日本画材料技法演習	1・2		2		
	油絵材料技法演習	1・2		2		
	環境造形演習	1・2		2		
	視覚造形演習	1・2		2		
	立体造形演習	1・2		2		
	映像メディア造形演習	1・2		2		
	金属造形演習	1・2		2		
	染織造形演習	1・2		2		
	漆造形演習	1・2		2		
	現代美術特別演習	1・2		2		

(3) 芸術学研究科総合造形芸術専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
研究科開設科目	創作総合研究Ⅰ	1	2			(修了要件) 14単位を修得し、研究指導を受けた上で、修了作品及び博士論文を提出し、その審査と最終学力試験に合格すること。
	創作総合研究Ⅱ	2	2			
	創作総合研究Ⅲ	3	2			
	領域横断特別研究	1・2	2			
	特別造形総合演習Ⅰ	1	2			
	特別造形総合演習Ⅱ	2	2			
	美学特講	1・2		2		
	日本美術史特講	1・2		2		
	東洋美術史特講(彫刻・工芸)	1・2		2		
	西洋美術史特講	1・2		2		
現代美術史特講	1・2		2			

(12) 芸術学研究科造形芸術専攻
 免許状の種類 中学校教諭 専修免許状 美術
 高等学校教諭 専修免許状 美術

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
美術の教科及び教科の指導法に関する科目	美学特講A		2	最低必要修得単位数は、24単位
	美学特講B		2	
	美術史特講(日本)A		2	
	美術史特講(日本)B		2	
	美術史特講(東洋・工芸)A		2	
	美術史特講(東洋・工芸)B		2	
	美術史特講(西洋)A		2	
	美術史特講(西洋)B		2	
	美術史特講(現代)A		2	
	美術史特講(現代)B		2	
	造形総合演習 I		1	
	造形総合演習 II		1	
	日本画研究 I		8	
	日本画研究 II		8	
	日本画研究(含古典研究) I		8	
	日本画研究(含古典研究) II		8	
	日本画材料技法演習		2	
	油絵研究 A I		8	
	油絵研究 A II		8	
	油絵研究 B I		8	
	油絵研究 B II		8	
	油絵材料技法演習		2	
	彫刻研究 A I		8	
	彫刻研究 A II		8	
	彫刻研究 B I		8	
	彫刻研究 B II		8	
	環境造形演習		2	
	造形計画研究 I		8	
	造形計画研究 II		8	
	視覚造形演習		2	
	立体造形演習		2	
	映像メディア造形演習		2	
	金属造形演習		2	
	染織造形演習		2	
	漆造形演習		2	
	現代表現研究 I		8	
	現代表現研究 II		8	
	現代美術特別演習		2	
	芸術学研究 I		8	
	芸術学研究 II		8	

(13) 芸術学研究科造形芸術専攻
 免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 工芸

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
工芸の教科及び教科の指導法に関する科目	美術史特講(日本)A		2	最低必要修得単位数は、24単位
	美術史特講(日本)B		2	
	美術史特講(東洋・工芸)A		2	
	美術史特講(東洋・工芸)B		2	
	美術史特講(現代)A		2	
	美術史特講(現代)B		2	
	造形計画研究Ⅰ		8	
	造形計画研究Ⅱ		8	
	造形総合演習Ⅰ		1	
	造形総合演習Ⅱ		1	
	視覚造形演習		2	
	立体造形演習		2	
	映像メディア造形演習		2	
	金属造形演習		2	
	染織造形演習		2	
	漆造形演習		2	
	現代表現研究Ⅰ		8	
	現代表現研究Ⅱ		8	
	現代美術特別演習		2	